

令和7年度学校評価のまとめと考察

〈学校評価アンケートより〉

1 はじめに

昨年度に引き続き、学校教育目標「つながりの中で自立する生徒の育成」を目標に掲げ、①気づき、考え、行動する生徒、②生徒も教師も元気の学校、③信頼される教師の3つの目指す姿を目指し、全教職員が学校経営への参画、推進してきた。

今年度は特に「中学生の地域貢献」についてを学校運営協議会で生徒会執行部の生徒とともに熟議するなど検討の機会を設定したり、学校行事については、生徒と教職員で合同実行委員会を組織し、学校職員だけでなく、生徒の主体性を意識した活動に取り組んだり、教職員、関係機関だけでなく生徒も含め、チーム学校としての教育活動を進めてきた。そこで、今年度の教育活動をふり返り、河北中の更なる発展のために、学校運営・教育活動の成果を、生徒、保護者の評価をもとに考察し、次年度に向けて組織的・継続的な改善を図っていきたい。

2 成果と考察

【アンケート全体から】

生徒回答では、前年度と比較して満足度率（5+4）が-2.5%減少し、全体で84.8%が前向きな評価を回答していた。また、満足度が80%を超える回答項目が21項目中で17項目あり、一定の満足感を感じながら充実した学校生活を送っていることが伺える。

保護者回答では、前年度と比較して満足度率（5+4）が-2.3%減少し、全体で過去3年で初めて70%を下回った。また、満足度が80%を超える回答項目が21項目中で7項目あったが、生徒回答と比較すると10%以上離れている項目が13項目あり、生徒の実感と保護者の実感に大きな開きがあることがわかる。生徒・保護者ともに満足度が80%を超えた項目は、「1河北中の雰囲気」「2行事への取組」「4総合的な学習の時間・地域とのつながり」「5目標を持った学校生活」「9交通マナー・社会のルール」「11部活動への取り組み」の6つの項目であった。学校開放日や体育祭、河北中祭、部活動、各種大会など生徒の活動が見える項目の満足度が高い評価を得ていた。

特に、交通安全や事故防止のために交通マナーや社会のルールに対する項目では、生徒の回答率が97.3%、保護者の回答率が94.0%とともに高い評価を示している。社会のルールを守ることについては、今年度、問題行動がなく落ち着いた学校生活を送ることが出来ている事の現れととらえている。一方で、地域の方から自転車の乗り方について指摘をいただくことが多く、安全な乗り方について生徒と共有すべき点があると推察される。

	生徒アンケート		保護者アンケート	
	R7回答合計	R6回答合計	R7回答合計	R6回答合計
満足度回答 (5・4回答)	84.8%	87.9% (84.6%)	69.7%	72.7% (70.5%)

()内の数値はR5の回答合計

R7 回収率	生徒	1年生	105/111	保護者	73/111	R6	R5	
	91%	2年生	127/140	68%	94/140	生徒	70%	84%
		3年生	99/114		83/114	保護者	49%	44%

回答率が昨年度より高く、多くの生徒・保護者から回答をいただいた。今後、回答しやすい評価アンケートの内容と項目、実施方法を検討していく。

【生徒アンケート回答から】

「河北中は雰囲気良く生き生きと活動している」の項目は、5・4評価で92.7%の生徒が感じていることは大変良い傾向だが、昨年度より-3.8%の減少で、かつ、「あまり思わない」「思わない」と感じている生徒が6.7%いる。より丁寧な生徒理解に努め、生徒とのコミュニケーションを大事にしながら個性をしっかりと見取り、今後も引き続き生徒一人ひとりを大事にしていることを伝えていきたい。

生徒会で力を入れて活動した行事などへの取り組みは、昨年度と同じ傾向で94.6%が満足している。一方で、「生徒会活動に関心を持ち、主体的に参加している」については、60.1%と昨年度より10%ほど減少している。日常の専門委員会等の生徒会活動の振り返りの時間を大事にし、一人ひとりに活動意義の確認と達成感を味わわせていきたい。

「地域の人に挨拶したり、行事に参加するなど地域との繋がりを大切にしている」については、今年度、地域行事への参加を部活動単位ではなく、生徒一人ひとりに呼びかけ、生徒の主体性をより大事にした。どんが祭りに約70名の生徒が参加があり2・3年生での評価が高かったが、生徒・保護者ともに1年生の評価が低い傾向があった。

「携帯電話やパソコンなどのメディア機器を、約束を守って使用している」については、生徒は、80.4%比較的高い評価を回答しているが、SNSのトラブルの事例が各学年からあがっている現状がある。日常的な生徒の利用状況を学校で把握することが難しい状況である。保護者アンケートで同じ項目を見ると47.2%と評価が低く生徒と比較すると30%の開きがあり、約束を守った使用のとらえに相違がある。

学習状況については、主体的に取り組む様子はあるものの、家庭学習については30%の生徒が「あまり思わない」「思わない」と回答しており、授業で学んだことの定着や次時の学習に向けての準備が不十分な状況がある。教員の授業については、前向きな評価が多く、学校研究や授業に向かう姿について一定の評価をいただいたととらえている。ただし、一定数「あまり思わない」「思わない」と回答した生徒がいるため、個別最適な学び、協動的な学びの一体的な推進により、より「わかる・できる・楽しい」と感じる授業づくりに努める必要がある。

教員については、すべての項目で5・4評価が80%を超え、前向きな評価をいただいた。しかしながら、教育活動や生徒理解が十分とは言えない状況である。県教育委員会で示されている担任力（学習指導力、生徒指導力、特別支援教育力、ICT活用力）の向上を図り、総合的な人間力、教育公務員としての自覚を高め、資質向上を図っていく。

【保護者回答から】

「河北中は雰囲気良く生き生きと活動している」の項目は、5・4評価で88.0%の保護者が感じていることは大変良い傾向だが、昨年度より-5.5%の減少で、かつ、「あまり思わない」「思わない」と感じている方が5.6%いる。学校が安心・安全な学びの場となるよう、一人ひとりに寄り添った支援に努めていく。

昨年度調査より、高い評価をいただいた項目には、「学校行事への取り組み、総合的な学習の時間の取り組み、地域行事への参加」がある。体育祭、河北中祭での生徒の活躍する姿からわかるように、生徒主体の取り組みで、3軍から2軍編成にしたり、応援の内容を一から創り上げたりするなどの活動が大変すばらしかった。また、今年度、学校運営協議会で熟議した内容である「中学生の地域貢献」について、どんが祭り、町内の清掃ボランティア等への参加や3年生の総合学習で取り組んだ「河北構想」など、実際の生徒の活動の様子が、高い評価を得られたことは大変うれしく感じる。

学習についての項目全般については、生徒の実感と保護者の実感に 20%～40%の開きのある項目が 3 項目あり、生徒は授業に前向きに取り組んではいるものの、その成果が表れないことが原因の一つに考えられる。学んだことを確実に定着させることが求められている。特に、家庭学習に取り組む姿については昨年度同様に課題が見られた。学習習慣の定着、小学校との連携が課題として残る。一方、「わからない」の回答も多く、実際の学習の様子や学校生活を知る機会が少ないことがその要因と捉えることもできる。

生活面においては、「携帯電話やパソコンなどのメディア機器を、約束を守って使用している」項目が 5・4 評価 47.2%と 2 番目に低い。生徒は比較的高い評価を回答しているが、保護者については生徒より 30%も低い評価を示しており、機器の管理、使用について課題が残った。

教員については、「わからない」の回答がどの項目も 20%を超え、実際の指導の様子や学習内容を知る機会が少なく、家庭での話を聞くことや学校開放の時などしかないことがその要因のひとつと捉えることもできる。

3 生徒・保護者の声から（要約・抜粋）

【生徒質問】～学校生活をより良くしていくためには～

- ・挨拶をしっかりとる。・ルールを守り、規則正しい生活をする。決まりを守る。
- ・SNS の利用や人とのかかわり方を大切にする。・人を傷つけない。
- ・ボランティア活動を進める。・地域との交流を進める。
- ・生徒主体の学校行事にする。・学年の壁をなくす。学年間の交流を増やす。
- ・いじめをなくす、しない。・一人ひとりの意見を取り入れる。寄り添う。
- ・一人ひとりが自立する。・河北中に何が必要か一人ひとりが考える。
- ・居心地がよく明日も学校に行きたいと思える学校にする。
- ・学習を頑張る。・宿題などの提出期限を守る。・時間を守る。
- ・授業の教え方を統一してほしい。・明るい雰囲気为学校にする。
- ・校舎をきれいにする。・環境を整える。・部活動の在り方をしっかり考えてほしい。
- ・生徒や保護者の意見を取り入れる。・進路情報を早めに周知する。
- ・生徒と先生のかかわり方をしっかりとる。 など

【保護者質問】～学校生活をより良くしていくためには～

- ・お便りは大変ありがたい。・お便りについて学年で頻度に差がある。・早めに連絡を。
- ・スマートフォンの持ち込みに対して対応が必要である。
- ・どの生徒にも平等に接して、わかりやすく、安心して受けられる授業をしてほしい。
- ・事案発生時の対応と事後の報告を丁寧にしてほしい。より安心できる。
- ・一人ひとりに寄り添った対応をお願いする。
- ・生徒の考えを拾えるような取り組みをお願いしたい。
- ・部活動の地域展開で学校のスタンスが見えない。
- ・「河北中の先生は」と一括りになっているので、アンケートに答えづらい。
- ・学校の様子をホームページで知らせてほしい。
- ・学校生活の中で活躍できる機会は、成長のためにも必要である（みんなに機会を）
- ・柔剣道場の照明が暗い。 など

4 課題と今後の取り組み

【生徒と保護者の回答率の開きについて】

- ・生徒の学校での生活や学習の様子を見ていただく機会の設定とその周知の仕方を検討する。
- ・学校評価の項目を検討し、回答しやすいアンケートに改定する。

【学力の向上・家庭学習の習慣化】

- ・今後も授業改善に取り組み、学習内容の確実な定着が図れるように、その単元、1時間で「どんなことができるようになったか、どんなことが分かったか」を実感できる授業にする。
- ・家庭、小学校との連携を図り、家庭学習の習慣化を図り、学習内容の確実な定着を目指す。また、学級懇談会等で困り感のある課題等を議題として話し合い、課題解決の糸口を探る。

【生徒主体の生徒会活動と地域貢献】

- ・学校行事だけでなく、日常の生徒会活動に目を向け様々な活動をとおして、自己存在感を高め、共感的な人間関係を構築し、自己決定の場を設け、主体的な生徒会活動の充実に努める。
- ・生徒主体の地域貢献活動を促すために、ボランティア活動等を掲示板にコーナー等を作り周知したり、学級ごとに掲示したりするなど、生徒一人ひとりが自らの意志で参加できるような環境ができるよう、生徒会執行部と連携を図り周知方法を検討する。

【安心安全な学校生活】

- ・登下校、日常の交通ルールの理解を、生徒と共有し、「事故にあわない・起こさない」ため警察との連携を図り、講習会等を実施する。
- ・「SNSのトラブルの未然防止」や「学校教育活動への持ち込まない」など規範意識の向上を図るため、道徳教育の推進や警察との連携を図る。

【その他】

- ・部活動の地域展開については、令和8年度から学校における休日の活動が無くなり、地域クラブ等による活動となる。平日の部活動の活動は継続するため、町教育委員会の指導の下、地域クラブ等との連携を図り、生徒の活動がより効果的になるよう働きかけを行う。
- ・教職員の資質向上に向け、校内の研修だけでなく、外部機関からの講師による研修を検討する。授業力の向上はもちろん、生徒が安心して授業に取り組むことができるように努めていく。
- ・学校給食で異物の混入があった。調査の結果、混入経路は特定できなかった。再発防止のため、配膳時の見守りを確実に行うこと、ホチキスを使用しないこと、画びょうをピンタイプにすることなどの対策を取った。今後も継続して、安心・安全な給食に努めていく。

5 おわりに

今年度はより多くの生徒・保護者から回答をいただいた。しかしながら、100%の回答には至って少なく、全ての意見を回収できなかったのが残念である。いただいたアンケートを整理していく中で、今年度重点に置いてきた「中学生の地域貢献について」高い評価をいただいたことが大きな成果と考える。次年度も地域と「つながり」を強く、地域の方も一緒になって「生徒の自立する姿」を目指していきたい。今後は、これまでも課題となっている保護者の方々に、「いかに生徒の姿を伝え、成長を実感を伴うものにできるか」に取り組んでいく。学校・保護者・地域が1つのチームとなって、希望である子供達一人ひとりを大切に育てていきたい。